

このたびは、ズーム507（以下“507”と呼びます）をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

507の機能を十分にご理解いただき、未永くご愛用いただくためにも、ご使用前に、この説明書をよくお読みのうえ、正しくお取り扱いください。お願い申し上げます。

なお、この取扱説明書はお手元に保存し、必要に応じてご覧ください。

株式会社ズーム 〒183 東京都府中市宮西町 2-10-2 ノアビル 1 階
電話：0423-69-7111 ファクシミリ：0423-69-7115
Printed in Japan 507-5010



1 特長

コンパクトなサイズながら、上級機なみの高品位なりバープを実現し、さらに最大990msものディレイタイムを持つディレイ、美しいコーラスをプラスした、コストパフォーマンス抜群の空間系エフェクトです。

ZOOM が独自に開発したDSP（デジタル信号処理装置）“ZFx-2”を搭載。空間系エフェクトのみにパワーを費やした贅沢な設計。ライブはもちろん自宅録音にも威力を発揮します。

ご自分の好みに合わせて、さまざまな設定がメモリーできる24種類のパッチの中から切り替えてお使いになれます。

ギター用オートクロマチックチューナーを内蔵。いつでもどこでも簡単にチューニングができます。また、チューナー機能を常時オフにすることも可能です。

オプションのエクスペリションペダルFP01を接続すれば、エフェクト音のミックス量を足元でコントロール可能。また、オプションのフットスイッチFS01を接続すればコーラスのオン/オフが操作可能です。

6LR61形乾電池（アルカリ）ACアダプターに対応した2電源方式を採用。

2 安全にご使用いただくためのお取り扱い上のご注意

安全上のご注意

この取り扱い説明書では、誤った取り扱いによる事故を未然に防ぐための注意事項を、マークを付けて表示しています。マークの意味はつぎの通りです。

警告 この表示を無視して誤った取り扱いをすると、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

注意 この表示を無視して誤った取り扱いをすると、使用者が傷害を負う可能性、または物的損傷のみの発生が想定される内容を示しています。

本製品を安全にご使用いただくために、つぎの事項にご注意ください。

電源について

警告 本製品は、消費電流が大きいため、ACアダプターのご使用をお薦めしますが、電池でお使いになる場合は、アルカリ電池をご使用ください。

ACアダプターによる駆動

ACアダプターは、必ずDC9Vセンターマイナス300mA（ズームAD-0006）をご使用ください。指定外のACアダプターをお使いになりますと、故障や誤動作の原因となり危険です。

ACアダプターの定格入力AC電圧と接続するコンセントのAC電圧は必ず一致させてください。ACアダプターをコンセントから抜く時は、必ずACアダプター本体を持って行ってください。長時間ご使用とならない場合は、ACアダプターをコンセントから抜いてください。

乾電池による駆動

市販の6LR61 / 9V形乾電池（アルカリ）をお使いください。507は充電機能を持っていません。乾電池の注意表示をよくみてご使用ください。長時間ご使用にならない場合は、乾電池を507から取り出してご使用ください。万一、乾電池の液もれが発生した場合は、電池ケース内や電池端子に付いた液をよく拭き取ってください。ご使用の際は、必ず電池ボックスを開けてください。

使用環境について

注意 507をつぎのような場所でご使用になりますと、故障の原因となります。必ずお避けください。温度が極端に高くなる所や低くなる所、湿度が極端に高い所、砂やほこりの多い所、振動や衝撃の多い所

取り扱いについて

注意 507は精密機器ですのでフットスイッチ以外のスイッチ類は足で踏むなど無理な力を加えないようにしてください。507に異物（硬貨や針金など）または液体（水、ジュースやアルコールなど）を入れないように注意してください。ケーブルを接続する際は、各機器の電源を必ずオフしてから行ってください。移動させる場合は一旦電源をオフしてから必ずすべての接続ケーブルとACアダプターを抜いてから行ってください。

改造について

注意 ケースを開けたり改造を加えることは、故障の原因となりますので絶対におやめください。改造が原因で故障が発生しても当社では責任を負いかねます。

使用上のご注意

他の電気機器への影響について

507は、安全性を考慮して本体からの電波放出および外部からの電波干渉を極力抑えております。しかし、電波干渉を非常に受けやすい機器や極端に強い電波を放出する機器の周辺に設置すると影響がでる場合があります。そのような場合は、507と影響する機器とを十分に距離をおいて設置してください。デジタル制御の電子機器では、507も含めて、電波障害による誤動作やデータ破損、消失など思わぬ事故が発生しかねません。ご注意ください。

お手入れについて

507が汚れたときは、柔らかい布で乾拭きをしてください。それでも汚れが落ちない場合は、濡らせた布をよくしぼってふいてください。クレンザー、ワックスおよびアルコール、ベンジン、シンナーなどの溶剤は使用しないでください。

故障について

故障したり異常が発生した場合は、すぐにINPUT端子にさされているケーブルのプラグかACアダプターまたは電池を抜いて電源を切り、他の接続されているケーブル類も外してください。「製品の型番」「製造番号」「故障、異常の具体的な症状」「お客様のお名前、ご住所、お電話番号」をお買い上げの販売店またはズームサービスまでご連絡ください。

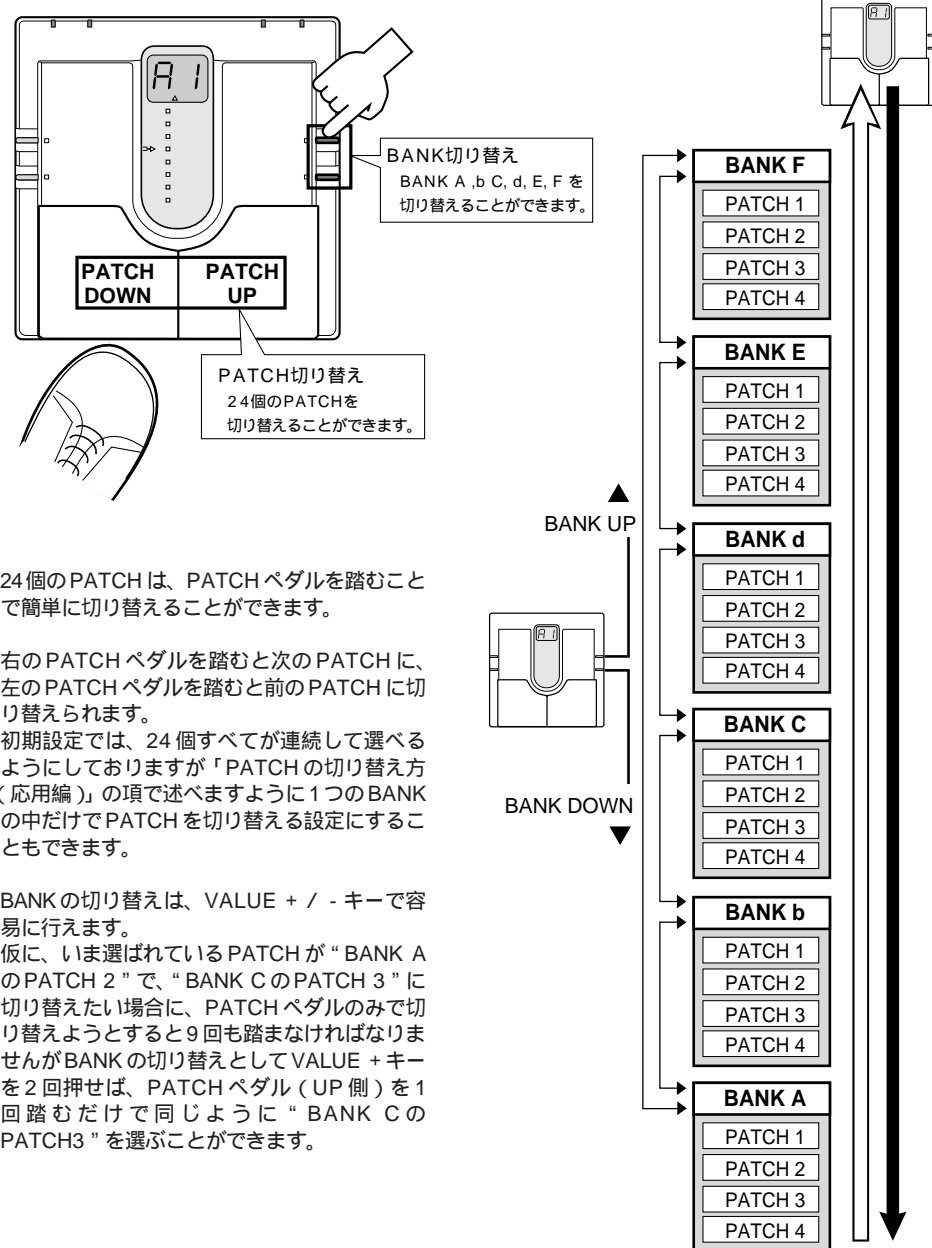
保証書の手続きとサービスについて

保証期間は、お買い上げいただいた日から1年間です。ご購入された店舗で必ず保証書の手続きをしてください。万一、保証期間内に、製造上の不備による故障が生じた場合は、無償で修理いたしますので、お買い上げの販売店に保証書を提示して修理をご依頼ください。

ただし、つぎの場合の修理は有償となります。

1. 保証書のご提示が無い場合
2. 保証書にご購入の年月日、販売店名の記述が無い場合
3. お客様の取り扱いが不適当なため生じた故障の場合
4. 指定業者以外での修理、改造が不適当なため生じた故障の場合
5. 故障の原因が本製品以外の他の機器にある場合
6. ご購入後に製品が受けた過度の衝撃による故障の場合
7. 本製品に起因しない事故や人災および天災による故障の場合
8. 消耗品（電池など）を交換する場合
9. 日本国外でご使用になる場合

7 PATCHの切り替え方



24個のPATCHは、PATCHペダルを踏むことで簡単に切り替えることができます。

右のPATCHペダルを踏むと次のPATCHに、左のPATCHペダルを踏むと前のPATCHに切り替えられます。

初期設定では、24個すべてが連続して選べるようにしておりますが「PATCHの切り替え方(応用編)」の項で述べますように1つのBANKの中だけでPATCHを切り替える設定にすることもできます。

BANKの切り替えは、VALUE + / - キーで容易に行えます。

仮に、いま選ばれているPATCHが「BANK AのPATCH 2」で、「BANK CのPATCH 3」に切り替えたい場合に、PATCHペダルのみで切り替えようとすると9回も踏まなければなりません。BANKの切り替えとしてVALUE + キーを2回押せば、PATCHペダル(UP側)を1回踏むだけで同じように「BANK CのPATCH 3」を選ぶことができます。

BANK HOLD OFF 時の BANK/PATCH の切り替わり

8 バイパス/チューナーの使い方

507は、エフェクトの音を一時的にオフの状態(これをバイパスと呼びます)にして、楽器の原音のみを出力させることができます。また、バイパス状態のときに、インジケータ表示によるギター用オートクロマチックチューナー機能を利用することも可能です。

バイパス状態

2個のPATCHペダルを同時に踏むとバイパスされます。

現在選択されているPATCHの表示 **A1** → **bP** → **--**

チューナー機能のオン/オフ
プレイモードでEDITキーとSTOREキーを同時に1秒以上押せば、チューナー機能のオン/オフ(バイパス状態のときにチューナー機能が動作するかどうか)を設定できます。設定を変更したときに、ディスプレイに「tunEr OFF」(チューナーオフ)、「tunEr on」(チューナーオン)と表示されます。

キャリブレーション調節
ギター用オートクロマチックチューナーの基準ピッチを設定します(キャリブレーション)。
* 基準ピッチは、A = 435Hz - 445Hzの範囲で設定できます。バイパス/チューナー状態でBANKボタンを押すと、約1秒間ディスプレイ上に35 - 45の数値が表示されますので、適切な値に合わせてください。電源オン時には、440Hz(40)に設定されています。

バイパス機能のオン/オフ
左右のPATCHペダルを同時に踏むとバイパス機能が動作します。バイパス/チューナー状態を解除したいときは、どちらか一方のPATCHペダルを踏むだけで解除できます。

バイパスを解除する場合は、どちらか一方のPATCHペダルを踏むだけで解除されます。バイパスが解除されると、以前選ばれていたPATCHに復帰します。

チューナー機能

507のお買い上げ時には、バイパス状態にしたときに、自動的にギター用オートクロマチックチューナー機能が動作するように設定されています。507がバイパス状態のときにチューニングしたい弦を開放弦で弾くと、その音名に最も近い音名が、ディスプレイに表示されます。

入力信号待機状態 = --

D = C =	レ# = D# =	ファ# = F# =	レギュラーチューニング ラ = A =
D# = C# =	ミ = E =	ソ = G =	レギュラーチューニング ラ# = A# =
レ = D =	ファ = F =	ソ# = G# =	レギュラーチューニング シ = B =

チューナー機能が動作しているときには、PARAMETER CURSOR インジケータが、チューニングの精度を計るメーターとして働き、微調整の目安として利用できます。

チューナー機能をオフにするには

バイパス状態のときに、チューナー機能を動作させたくない場合は、プレイモードでSTOREキーとEDITキーを1秒間以上同時に押してください。これでチューナー機能がオフになり、電源をオフにしてもこの設定が記憶されます。設定を変更したときに、ディスプレイに「tunEr OFF」(チューナーオフ)と表示されます。

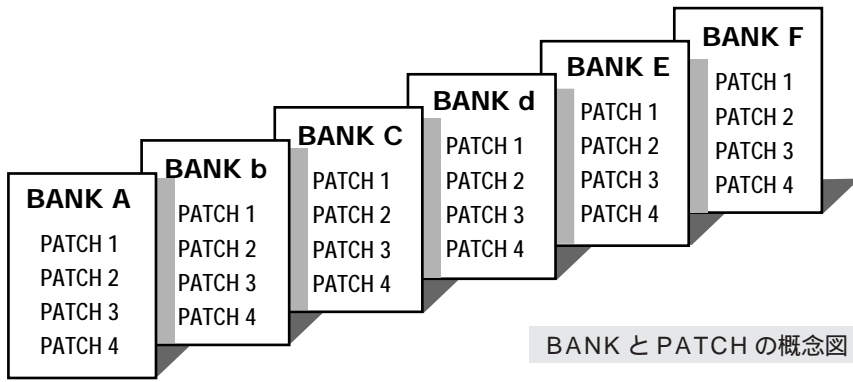
チューナー機能をオンに戻すときも、同じ手順です。この場合は「tunEr on」(チューナーオン)と表示されます。

NOTE : ギターと507の間で他のエフェクターがオンになっている場合、チューナーが正しく動作しないことがありますので、ご注意ください。

3 BANK / PATCHとは?

PATCH : エフェクトの設定を一組にまとめたものをPATCH (パッチ) と呼びます。PATCHは、全部で24個あります。507には、あらかじめ24種類のPATCHが記憶されています。この設定は、お好みに合わせた作り変え (EDIT : エディット) ができます。

BANK : 4個のPATCHをひとまとめにした区切りをBANK (バンク) と呼びます。



BANK と PATCH の概念図

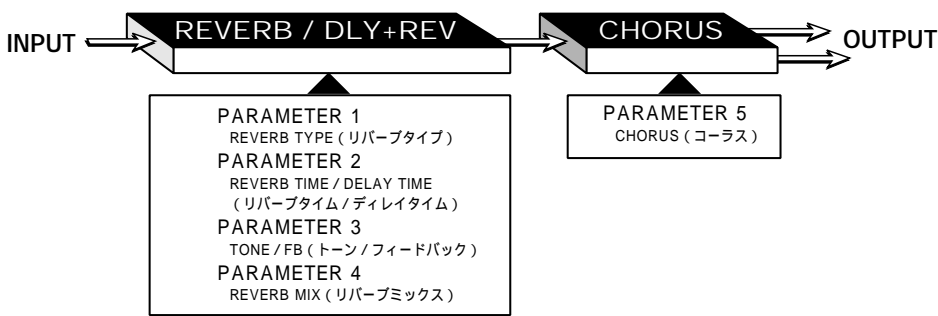
4 PATCH LIST

507は、24個のPATCHがあります。これらには、工場出荷する際にあらかじめ当社推奨の設定が記憶されています。PATCHの内容は、お好みに合わせて自由に作り変えることができますし、呼び出すこともできます。

PATCH#	PATCH CONCEPT	EFFECT TYPE	for ELECTRIC GUITAR	for ACOUSTIC GUITAR	for MTR & DTM
A1	ベーシックなホールリバーブ	HALL 1			
A2	コーラス入りアルペジオ用リバーブ	HALL 1	with CHORUS		
A3	ディレイ+リバーブ、メロディー弾きに合う	DLY+REV 1			
A4	ベーシックなルームリバーブ	ROOM 4			
b1	ギター用プレートリバーブ	PLATE 3			
b2	アンサンブルの中で際立つショートリバーブ	ROOM 3	with CHORUS		
b3	コーラス+ディレイ+リバーブ	DLY+REV 1	with CHORUS		
b4	何でも民族音楽にしようSFX	DLY+REV 2	with FLANGE		
C1	ベーシックなプレートリバーブ	PLATE 2			
C2	リバーブの短いディレイ、カッティングに	DLY+REV 4	with CHORUS		
C3	ギターサウンドにマッチするディレイサウンド	DLY+REV 3			
C4	リバーブ+ステレオフランジャー	HALL 2	with FLANGE		
d1	懐かしいベンチャーズサウンドのリバーブ	HALL 4			
d2	ハイオリティなダブリングサウンド	DLY+REV 4			
d3	きらびやかなプレートリバーブ	PLATE 1			
d4	アコースティックギター用コーラス+リバーブ	HALL 3	with CHORUS		
E1	金属的な響きの土管の中サウンド	ROOM 1			
E2	ゲート風リバーブにコーラスをプラス	PLATE 4	with CHORUS		
E3	堅い響きのジャズクラブのアンビエンス	ROOM 2			
E4	ロックボーカル用プレート	PLATE 2	with CHORUS		
F1	[for Track Down] ポップスボーカルエコー	PLATE 1			
F2	[for Track Down] カラオケ演歌エコー	DLY+REV 2			
F3	[for Track Down] コーラスパートリバーブ	ROOM 3	with CHORUS		
F4	[for Track Down] ギターソロ汎用	DLY+REV 1	with CHORUS		

5 エフェクトの構成について

507のPATCHは、つぎに挙げる2つの「エフェクトモジュール」(エフェクトの設定をわかりやすくするための仮定の箱) から構成されています。それぞれのモジュールには「エフェクトパラメーター」と呼ばれるエフェクトの音色を決める要素が含まれています。好みに応じてエフェクトモジュールごとにパラメーターを設定したものがPATCHと考えることができます。



REVERB / DLY+REV モジュール
パラメーターの設定により、リバーブ各種、またはディレイ+リバーブとして使用できるモジュールです。

CHORUS モジュール
音にまるやかな広がり感を与えるエフェクトモジュールです。パラメーターの設定により、REVERB / DLY+REV エフェクトモジュールの前または後に接続することができます。後に接続した場合はよりクセの強いコーラス音色になり、フランジャー効果も得られます。



CHORUS モジュールを REVERB / DLY+REV モジュールの前に接続した場合



C7 - C9 で
フランジャー効果

CHORUS モジュールを REVERB / DLY+REV モジュールの後に接続した場合

6 各部の名前とはたらき / 接続について

フロントパネル

TUNER (チューナー) インジケーター :
507がチューナーとして動作していることを表示するインジケーターです。また、チューニングを微調整する際のジャストチューニングの位置を示します。
BATTERY EMPTY WARNING表示 :
電池駆動時には、このインジケーターの点滅で電池が消耗していることを警告します。

STORE (ストア / 保存) キー :
PATCHの内容を保存する際に、保存待機状態にさせたり、保存を実行させるときに使用するキーです。
DIRECT LOAD機能の設定 :
演奏をお楽しみいただく状態 (これを「プレイモード」と呼びます) で STOREキーを1秒以上押すと、DIRECT LOAD機能のオン/オフが切り替わります (詳しくは「10. PATCHの切り替え方 (応用編: DIRECT LOAD OFF)」をご参照ください)。

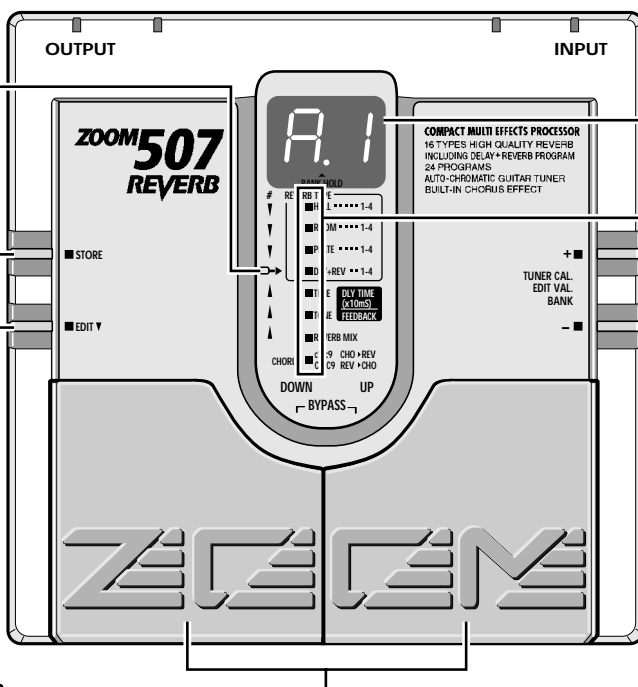
EDIT (エディット: PATCHを自分の好みに作り変える) キー :
プレイモードからPATCHを好みに合うように作り変える状態 (これを「エディットモード」と呼びます) に切り替えるときに使用するキーです。
エディットモードでは、このキーで変更したいエフェクトパラメーターを選択します。また、エフェクトパラメーター-CHORUSが選ばれているときにEDITキーを押せば、エディットモードからプレイモードにもどることができます。
BANK HOLD機能の設定 :
プレイモードでEDITキーを1秒以上押すと、BANK HOLD機能のオン/オフが切り替えられます (詳しくは「9. PATCHの切り替え方 (応用編: BANK HOLD ON)」をご参照ください)。

リアパネル

INPUT (インプット) 端子 :
ギターを接続します。
インプット端子は、電池駆動時の電源スイッチにもなっています。シールドケーブルを端子に接続すると、507の電源がオンになります。電池の消耗を防ぐために、使用しないときはケーブルを抜いてください。

DC IN (ACアダプター) 端子 :
DC9Vセンターマイナス300mAのACアダプター (ZOOM AD-0006) を接続します。
この端子にACアダプターを接続すると507の電源がオンになります。

CONTROL IN (コントロール イン) 端子 :
オプションのエクスペッションペダルFP01やフットスイッチFS01を接続して507を外からコントロールする端子です。
オプションのエクスペッションペダルFP01を接続すると、エフェクト音のミックス量をコントロールできます。
オプションのフットスイッチFS01を接続すると、コーラスのオン/オフを外から切り替えることができます。

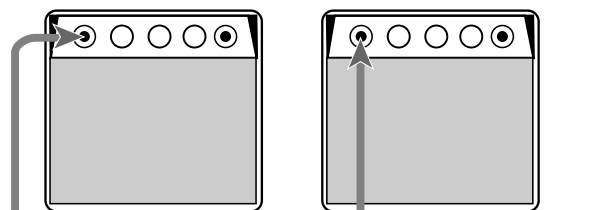


DISPLAY (ディスプレイ) :
507を操作するのに必要な情報が表示されます。
プレイモード:
選ばれているBANK (A-F) と PATCH (1-4) を表示します。
エディットモード:
選択されているエフェクトパラメーターの値を表示します。
バイパス/チューナー状態:
入力された楽器音の最寄りの音名を表示します。

PARAMETER CURSOR (パラメーターカーソル) インジケーター :
プレイモード:
エフェクトモジュールのオン/オフを点灯で表示します。
エディットモード:
エフェクトモジュールのオン/オフを点灯と点滅で表示します。また、エディットの対象に選ばれているエフェクトパラメーターを点滅で表示します。
バイパス/チューナー状態:
入力された信号のピッチの高低を表すチューナーのメーターとして動作します。

VALUE (バリュウ: 値) + / - キー :
プレイモード:
BANKの切り替えに使用します。
エディットモード:
エフェクトパラメーターの値を設定するときに使用します。
バイパス/チューナー状態:
チューナーの基準ピッチを設定 (キャリブレーション) するときに使用します。

PATCH UP (右) / DOWN (左) ペダル :
プレイモード:
PATCHを切り替えるときに使用します。また両方を同時に踏むと、507がバイパス/チューナー状態になります。
エディットモード:
エディットの対象となるエフェクトパラメーターを選ぶときに使用します。また両方を同時に踏むと、エフェクトモジュールのオン/オフを切り替えられます。
バイパス/チューナー状態:
バイパス/チューナー状態から抜けてプレイモードに戻るときに使用します。この場合はどちらか一方のみを踏めばプレイモードに戻ります。



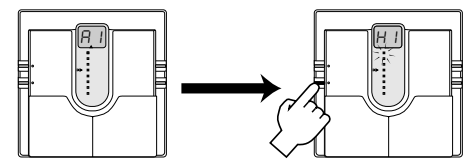
OUTPUT (アウトプット) 端子 :
507の音を出力する端子です。モノラルシールドケーブルで1台のギターアンプに、またはY字ステレオシールドケーブルで2台のギターアンプにつなぐ、ステレオヘッドフォンをつないでください。なお、ステレオヘッドフォンをお使いになる場合は、若干音量が小さく感じられることがあります。その場合は、負荷インピーダンスの重いヘッドフォン (負荷インピーダンス=32Ω以下) をご使用ください。

11 PATCHの作り変え方(エディット)

507のお買い上げ時には、あらかじめ推奨設定として24個のPATCHが内部に記憶されています。しかし、これらのPATCHは507の持つ多彩な音色や能力のごく一部でしかありません。そこで507では、お客様の好みに合わせてより多くの音色をお楽しみいただけるように、パラメーター(PATCHの構成要素)の設定を変更して音色を作り替える機能が付いています。この作り替える操作を「エディット」と呼び、エディットを行うための状態を「エディットモード」と呼びます。

通常の演奏をお楽しみいただく状態(プレイモード)からエディットを行うための状態(エディットモード)にするには、EDITキーを押し、すぐに(1秒未満)離してください。

* 1秒以上押し、BANK HOLD機能のオン/オフ切り替え操作になってしまうので、ご注意ください。



まず、プレイモードでエディットの元とするPATCHを選びます。

EDITキーを押します。これでエディットモードになります。

プレイモードからエディットモードに入った直後は、4つのREVERB TYPEパラメーター(HALL, ROOM, PLATE, DLY+REV)のうち、現在使用されているタイプのインジケーターが点滅し、そのパラメーターの設定内容がディスプレイに表示されます。これはREVERB TYPEパラメーターがエディットの対象として選ばれていることを表します。

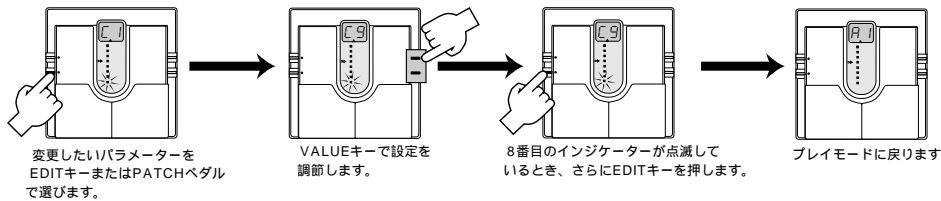
エディットモード内では、EDITキーでエディットの対象となるパラメーターを選びます。EDITキーを押すごとにPARAMETER CURSORインジケーターの点滅部分が下に移動していきます。PARAMETER CURSORインジケーターの点滅しているところがエディットの対象となります。

それぞれのPARAMETER CURSORインジケーターには、つぎのようなパラメーターが割り当てられています。なお(*)印のついたパラメーターは、1番上のパラメーターでDLY+REV系のリバーブタイプが選ばれた場合のみ有効です。

- ・1番目～4番目までのPARAMETER CURSORインジケーター：リバーブタイプの選択
- ・5番目のPARAMETER CURSORインジケーター：リバーブタイム/ディレイタイム(*)の設定
- ・6番目のPARAMETER CURSORインジケーター：リバーブトーン/ディレイフィードバック(*)の設定
- ・7番目のPARAMETER CURSORインジケーター：リバーブ音/ディレイ音+リバーブ音(*)のミックス量の設定
- ・8番目のPARAMETER CURSORインジケーター：CHORUSモジュールの設定

パラメーターの変更は、VALUE +/- キーで行います。それぞれのパラメーター内容については、「12. エフェクトパラメーターの一覧表」をご覧ください。

8番目のPARAMETER CURSORインジケーターが点滅しているときに、EDITキーを押すと、エディットモードを抜けてプレイモードにもどります。



変更したいパラメーターをEDITキーまたはPATCHペダルで選びます。

VALUEキーで設定を調整します。

8番目のインジケーターが点滅しているとき、さらにEDITキーを押します。

プレイモードに戻ります。

12 エフェクトパラメーターの一覧表

PARAMETER 1 REVERB TYPE (リバーブタイプ)	REVERB / DLY+REV モジュールのリバーブタイプ (効果の種類) を選びます。 HALL系、ROOM系、PLATE系、DELAY+REVERB系の4つのグループにそれぞれ4タイプずつ、合計16タイプが選択できます。		設定範囲 H1 ~ H4, r1 ~ r4, P1 ~ P4, d1 ~ d4		+/- キーのどちらか一方を押せば前後のリバーブタイプが選択できます。また、+/- キーを両方押せば、次のグループの最初のエフェクトタイプに移動します。それぞれのタイプの特徴は次の通りです。	
	HALL1 ~ 4 H1 ~ H4 ホールの残響をシミュレートしたリバーブです。	ROOM1 ~ 4 r1 ~ r4 部屋の残響をシミュレートしたリバーブです。	PLATE1 ~ 4 P1 ~ P4 プレート(鉄板エコー)の残響をシミュレートしたリバーブです。	DELAY+REVERB系エフェクトタイプ d1 ~ d4 ディレイ(山びこのようなエコー効果)とリバーブ(残響効果)を組み合わせたエフェクトタイプです。 * このエフェクトタイプが選ばれている場合は、パラメーター2～4の内容が変化します。		
PARAMETER 2 REVERB TIME / DELAY TIME (リバーブタイム/ディレイタイム)	HALL、ROOM、PLATE系のリバーブタイプが選ばれている場合		リバーブタイム(残響の長さ)を設定します。		DELAY+REVERB系のリバーブタイプが選ばれている場合	
	設定範囲 1 30 値が大きくなるほど、リバーブの残響時間が長くなります。+/- キーのどちらか一方を押せば値が1ずつ上下します。+/- キーを両方押せば10、20、30と値をスキップさせることが可能です。		設定範囲 1 99 値が大きくなるほど、原音とディレイ音の間隔、さらにディレイ音同士の間隔が長くなります。+/- キーのどちらか一方を押せば値が1ずつ上下し、+/- キーを両方押せば10、20... 90、99と値をスキップさせることが可能です。			
PARAMETER 3 TONE / FB (トーン/フィードバック)	HALL、ROOM、PLATE系のリバーブタイプが選ばれている場合		リバーブの音色を調節します。		DELAY+REVERB系のリバーブタイプが選ばれている場合	
	設定範囲 0 50 値が大きくなるほど、リバーブの高音が強調され、明るい音色となります。+/- キーのどちらか一方を押せば値が1ずつ上下し、+/- キーを両方押せば10、20... 50と値をスキップさせることが可能です。		設定範囲 0 50 値が大きくなるほど、繰り返し回数が多くなります。+/- キーのどちらか一方を押せば値が1ずつ上下し、+/- キーを両方押せば10、20... 50と値をスキップさせることが可能です。			
PARAMETER 4 REVERB MIX (リバーブミックス)	HALL、ROOM、PLATE系のリバーブタイプが選ばれている場合		リバーブ音のミックス量を調節します。		DELAY+REVERB系のリバーブタイプが選ばれている場合	
	設定範囲 0 50 値が大きくなるほど、リバーブ音の音量が上がっていきます。+/- キーのどちらか一方を押せば値が1ずつ上下し、+/- キーを両方押せば10、20... 50と値をスキップさせることが可能です。		設定範囲 0 50 値が大きくなるほど、ディレイ音とリバーブ音の音量が上がっていきます。+/- キーのどちらか一方を押せば値が1ずつ上下し、+/- キーを両方押せば10、20... 50の値をスキップさせることが可能です。			
PARAMETER 5 CHORUS (コーラス)	CHORUSモジュールの効果の深さと、CHORUSモジュールを接続する位置を設定します。		設定範囲 c1 c9 C1 C9		+/- キーのどちらか一方を押せば設定が1段階ずつ変化し、+/- キーを両方押せばc1 C1のようにスキップさせることが可能です。また、CHORUSパラメーターが選ばれているときに左右のPATCHペダルを同時に踏めば、コーラスのオン/オフを切り替えることができます。オフにした場合は、ディスプレイに“oF”と表示されます。	
	c1～c9の範囲ではCHORUSモジュールがREVERB/DLY+REVモジュールより前に接続され、数値が大きくなるほど効果が深くなります。C1～C6の範囲ではCHORUSモジュールがREVERB/DLY+REVモジュールより後ろに接続され、数値が大きくなるほど効果が深くなります。C7～C9の範囲ではフランジャー効果になります。		c1 c9 C1 C9			

HINT 1 変更したいパラメーターの選択

「11. PATCHの作り変え方(エディット)」で説明したように、変更したいパラメーターはEDITキーを何度か押し続けて選択しますが、PATCHペダルを用いても同じように選択することができます。

PATCH UPペダル(右側のPATCHペダル)を押すと、下から上へインジケーターの点滅(選択されているパラメーター)が移動します。PATCH DOWNペダル(左側のPATCHペダル)を押すと、上から下へインジケーターの点滅が移動します。

HINT 2 エフェクトモジュールのオン/オフについて

507の2つのエフェクトモジュールREVERB/DLY+REVとCHORUSは、それぞれ2つ(リバーブタイプとしてDLY+REVが選ばれている場合は3つ)のコンパクトエフェクターが直列に接続されていると考えることができます。これら2つのモジュールは、コンパクトエフェクターと同じように、個別にオン/

オフを切り替えてその状態をPATCHとして記憶することが可能です。

REVERB / DLY+REVモジュールのオン/オフを切り替えるにはパラメーター1～4が選ばれている状態で、左右のPATCHペダルを同時に押し、REVERB / DLY+REVモジュールがオフとなります(ディスプレイに“oF”と表示されます)。同じ状態で左右のPATCHペダルを同時に押しと再びオンとなり、各パラメーターの設定値も元の値(オフにされる直前のパラメーター値)にもどります。

CHORUSモジュールのオン/オフを切り替えるにはパラメーター5が選ばれている状態で、左右のPATCHペダルを同時に押し、CHORUSモジュールがオフとなります(ディスプレイに“oF”と表示されます)。

エフェクト・オフ表示 **oF**

オフの状態では左右のPATCHペダルを同時に押しと

再びオンとなり、パラメーターの設定値も元の値にもどります。

HINT 3 パラメーター設定のショートカットについて

通常パラメーターの設定は、VALUEキーを用いて1つづつ値を上げたり下げたりして調節を行いますが、操作を簡単にするために、ショートカット(近道)操作ができるようにしてあります。

ショートカット操作は、エディットモードでVALUE +/- キーを同時に押すことで行えます。例えばREVERB / DLY+REVモジュールのリバーブタイプがh1(HALL1)に設定されているのをd3(DLY+REV3)に切り替えたいとします。この場合、通常の操作ではVALUE +/- キーを14回も押さなければなりません。しかしVALUE +/- キーを同時に押しショートカット操作を用いれば、2回のショートカット操作でd1(DLY+REV1)に瞬時に変わり、続けてVALUE +/- キーを2回押すだけで目的のリバーブタイプに到達できます。

HINT 4 マスターエフェクトレベルの調節

507では、総合的なエフェクト音量を決定するマスターエフェクトレベルを調節することができます。

マスターエフェクトレベルを設定するには、プレイモードで、VALUE +/- キーを同時に1秒間以上押し続けます。すると、現在のマスターレベルが1秒間ディスプレイに表示されます。レベルを変更した場合は、マスターエフェクトレベルの値が表示されている間に、VALUE +/- キーまたはVALUE - キーを用いて希望の音量になるように調節します。マスターエフェクトレベルの調節できる範囲は0～50です(初期設定値=40)。

なお、マスターエフェクトレベルの値は記憶されません。電源をオンすることに再度調節してください。

9 PATCHの切り替え方(応用編：BANK HOLD ON)

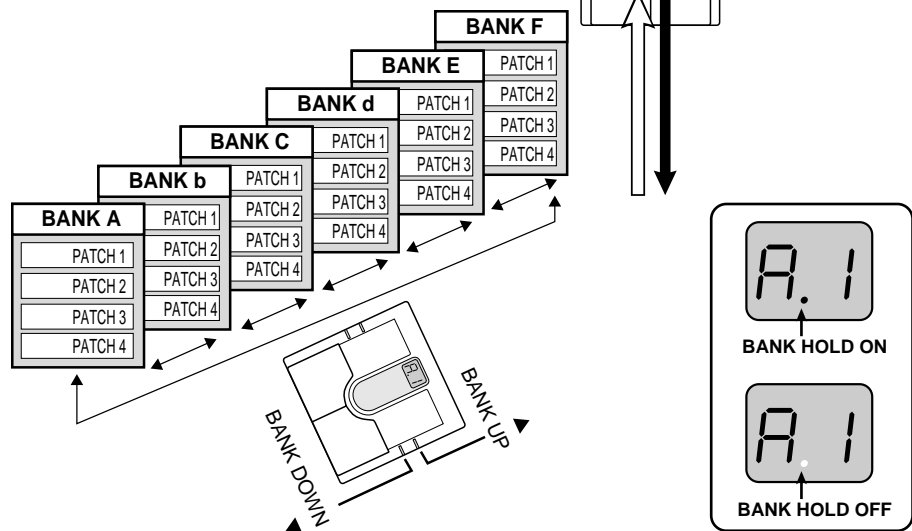
507のお買い上げ時には、BANKの区切りとは無関係にPATCHペダルを踏むとすべてのPATCHを順番に切り替えられるような設定となっています。

BANK HOLD (バンクホールド) 機能は、24個のPATCHをBANKごとに分けて4個ずつ操作する機能です。この機能がオンのときにPATCHペダルを踏むと、同じBANK内で4個のPATCHが順番に切り替わります。

BANK HOLD 機能をオンにする場合は、プレイモードでEDITキーを1秒間以上押し続けてください。ディスプレイ上のBANK HOLDインジケータが点灯して機能がオンになったことを示します。BANK HOLD 機能をオフする場合も、EDITキーを1秒間以上押し続けてください。インジケータが消灯します。

BANKの切り替えは、VALUE + / - キーで行います。

BANK HOLD ON 時のBANK/PATCHの切り替わり



10 PATCHの切り替え方(応用編：DIRECT LOAD OFF)

工場出荷時は、PATCHペダルを踏むとすぐにPATCHが切り替わるような設定となっています。このようなPATCHの切り替え方法をDIRECT LOAD (ダイレクトロード) がオンされていると呼びます。

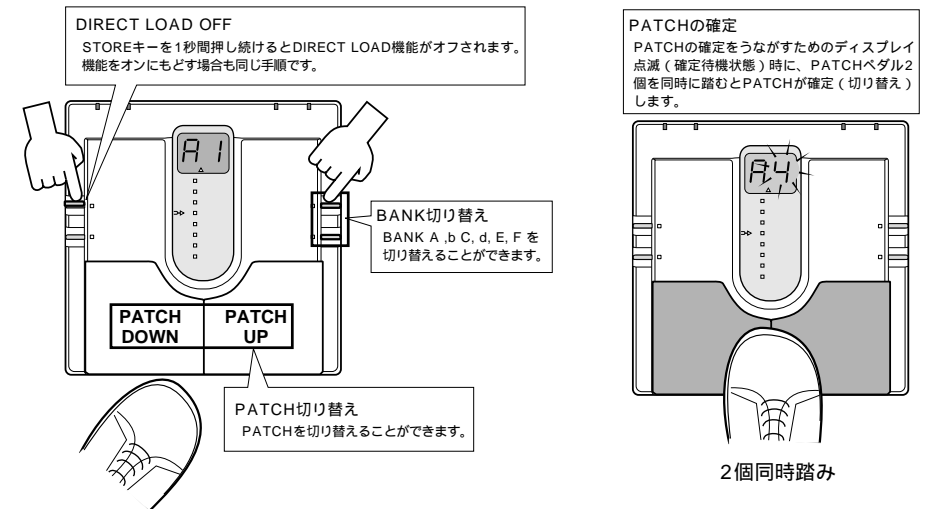
1回のアクションでPATCHを切り替えられるので、並んでいる順番に切り替えるにはとても便利ですが、切り替え先のPATCHが離れている場合、不要なPATCHの音色を再生してしまいますので不便さを感じさせることがあります。

その場合、ここで説明するようにDIRECT LOAD 機能をオフして利用されると便利です。DIRECT LOAD 機能がオフされていると、確定操作を実行しない限り、BANK やPATCH をどのように切り替えても、現在選ばれているPATCHの音色が保持されます。

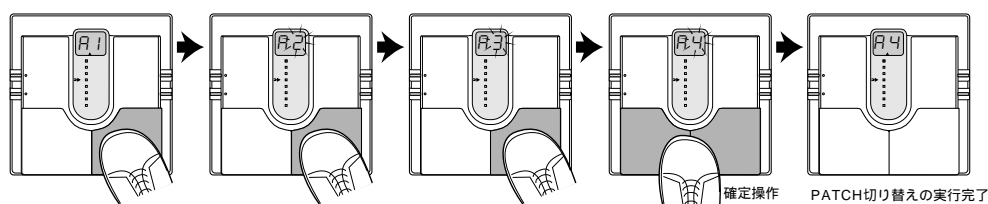
例えば、PATCH1からPATCH4に切り替える場合など、DIRECT LOAD 機能がオンのときは、PATCH UP ペダルを踏むたびに、PATCH2, PATCH3の音色を再生してPATCH4に切り替わりますが、DIRECT LOAD 機能がオフの場合は、PATCH UP ペダルを踏むごとにディスプレイの文字が点滅してPATCHの確定待ち状態であることを示します。PATCH4の点滅表示で確定操作をすると、そこで初めて音色が切り替わります。つまり、途中のPATCH2, PATCH3の音色は再生されません。

DIRECT LOAD 機能のオン/オフは、プレイモードでSTOREキーを1秒間以上押すことで切り替えられます。

DIRECT LOAD 機能がオフされている時のPATCH 確定は、PATCHペダルを2個同時に踏むことで実行されます。



例) PATCH1からPATCH4に切り替える場合



13 PATCHの保存（ストア）

お客様が作り変えた（エディットした）PATCHは、保存（ストア）しない限り別のPATCHを選んだり電源をオフしたりするとエディット前の状態にもどってしまいます。ここでは、エディットしたPATCHのストアについて説明します。

ストアは、プレイモードでもエディットモードでも行えます。

操作は、いたって簡単です。

まず、好みに合わせてエディットしたPATCHの状態、STOREキーを押してください。

プレイモードでストアする場合は、STOREキーを1秒以内に離してください。

1秒以上押し続けると、DIRECT LOAD機能の設定になってしまいます。

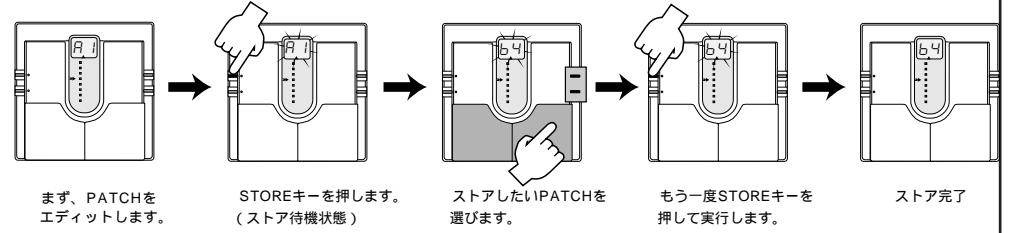
ディスプレイが点滅します。この状態をストア待機状態と呼びます。

ストアを中止する場合は、この状態でEDITキーを押してください。

つぎに記述されている操作を実行しますと、PATCHの設定は変わってしまい、元にはもどけません。

ストア待機状態で、そのままSTOREキーを押すと、先ほどまでエディットしていたPATCHに保存されます。

またストア待機状態で、PATCHの切り替えを行ってからSTOREキーを押すと、ここで選んだPATCHに保存されます。先ほどまでエディットしていたPATCHは、エディット前の状態にもどります。

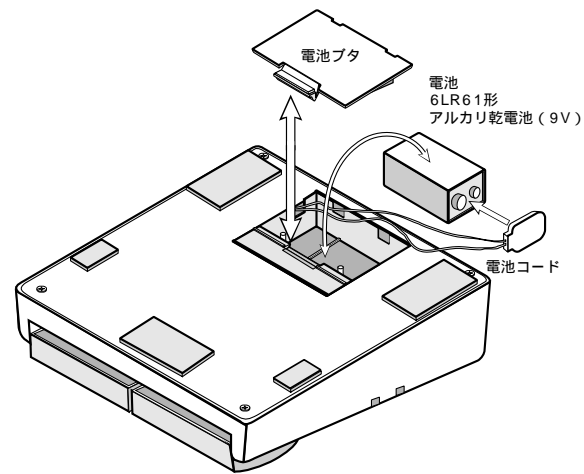


14 電池の交換について

電池駆動時にチューナーインジケータが点滅する場合は、電池が消耗しています。

つぎの手順で電池を交換してください。

507は、消費電流の大きい機器です。電池は、6LR61形乾電池（アルカリ）をご使用ください。ほかの電池を使用になられた場合、連続使用時間が短縮されることがございます。



- 507本体を裏返しにして、電池ブタを開けます（爪を押して引っ掛かりを外してブタを上を持ち上げてください）。
- 電池ケースから電池を出して、電池コードを外します（外す際は、コード自身を引っ張らずに結合端子部分を持って外してください）。
- 新しい電池を電池の極性（+/-）に注意して電池コードに接続し、正しく電池ケースに入れます。
- 電池コードをはさまないように注意して、電池ブタを閉めてください（電池ブタの爪がきちんと引っ掛かるようにしてください）。

15 PATCHを工場出荷時の状態にもどす方法

507は、工場から出荷をする際に当社推奨のPATCHを24個記憶しています。

この設定は、お客様が設定を書き換えてストアされた後でも復帰させることができます。

そして、この設定を復帰させる操作のことをリコールと呼びます。特に、24個すべてのPATCH設定とBANK HOLD機能やDIRECT LOAD機能の設定を初期化するなどすべてを元にもどすことをオールリニャライズといいます。

リコールは、通常の操作とは独立しています。プレイモードやエディットモードから直接切り替えることはできません。特別な方法で電源をオンする操作でのみ、リコール操作が使用できるようになります。

リコール操作は、つぎの手順で行ってください。

- 電源を一旦オフにします。
- STOREキーを押しながら、電源をオンします。
- ディスプレイに、AL（AL）を点滅表示します。
- オールリニャライズを実行させる場合は、この状態でSTOREキーを押してください。表示が素早く点滅してオールリニャライズを実行します。完了すると自動的にプレイモードにもどります。
- 特定のPATCHの設定だけをリコールさせたい場合は、上記3.の状態でも通常のPATCH切り替えと同じ操作をして、希望のPATCHを選んでください。
- 希望のPATCHを選択したなら、STOREキーを押してください。表示が素早く点滅して指定のPATCHを該当のPATCHに復帰させます。
- 個別のリコールは、継続して行うことができます。リコール操作から抜きたい場合は、EDITキーを押してください。プレイモードに切り替わります。また、電源をオフすることでリコール操作から抜けることができます。

16 製品仕様

エフェクト：	最大同時使用数 3エフェクト 17種類 ホールリバーブ1 - 4、ルームリバーブ1 - 4、プレートリバーブ1 - 4、ディレイ+リバーブ1 - 4、コーラス
エフェクトモジュール：	同時最大使用数 2モジュール
BANK/PATCH：	6BANK × 4PATCH = 24PATCH（書き換え、保存可能）
Analog/Digital 変換：	18bit 128倍オーバーサンプリング
Digital/Analog 変換：	16bit リニア
サンプリング周波数：	31.25kHz
インプット：	ギターインプット 標準モノラルフォーンジャック （定格入力レベル = -20dBm / 入力インピーダンス = 470K Ω） ライン/ヘッドフォン兼用アウトプット 標準ステレオフォーンジャック （最大出力レベル = +6dBm / 出力負荷インピーダンス = 10K Ω 以上時）
アウトプット：	オプションFP01 / FS01 接続端子
コントロール端子：	ディスプレイ/インジケータ
ディスプレイ/インジケータ	2桁7セグメントLED、 チューナーインジケータ、パラメータカーソルインジケータ
電源：	別売 ACアダプター DC9V センターマイナス（ズームAD-0006） 電池 6LR61形乾電池（アルカリ）× 1個 連続使用 約4時間
外形寸法：	147mm（W）× 157mm（D）× 48mm（H）
重量：	480g（電池含まず）

・0dBm = 0.775Vrms

・製品の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。